

平成26年度（平成25年度事業対象）

御殿場市教育委員会
自己点検・評価報告書

平成26年10月

御殿場市教育委員会

目 次

はじめに	1
◎点検・評価の方法	2
1. 点検・評価の対象	
2. 点検・評価方法について	
3. 学識経験を有する知見の活用	
◎御殿場市教育委員会の自己点検・評価シート（平成25年度分）	3
1. 教育委員会の活動	3
2. 教育委員会が管理・執行する事務	5
3. 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	7
◎「御殿場市教育委員会管理及び執行状況に関する懇話会」からの意見	13
◎総合評価	16

はじめに

平成19年6月に教育委員会の責任体制の明確化や体制の充実のため、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正されました。この改正の一環として、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し議会に提出するとともに市民に公表することが義務付けられました。

そこで、本年度も平成25年度の教育委員会の活動や教育施策について、自己点検・評価を行い、その結果を取りまとめましたので、ご一読の上、ご意見をお寄せいただければ幸いと存じます。

御殿場市教育委員会では、毎年教育施策の基本方針及び重点施策を定め、幅広い事業を展開しております。縦の接続と横の連携を組織化し、学校・家庭・地域社会がそれぞれの機能と役割を効果的に発揮できるように教育施策を進めております。また、将来の御殿場市を支える人材を育成するために学校教育においては、「豊かな感性 確かな知性 健やかな心身の育成」に努めると共に、現代の重要課題としての、環境、国際理解、情報、キャリア、人権、健康等に関する教育を推進しております。多くの市民の皆様のご協力により、学校教育においても、また、生涯学習においても成果を上げているものと思います。

これからも、教育行政を行う者の責任の重大さを深く認識し、本市の教育行政が時代に即し、公正かつ適正に行われるよう努めてまいります。

平成26年10月

御殿場市教育委員会 委員長 小見山 司朗

<参 考> 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 (抜粋)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第二十七条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

◎点検・評価の方法

1. 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、教育委員会の活動、教育委員会が管理・執行する事務、教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務の3区分とし、本年度は、平成25年度に実施した事務事業について点検・評価を実施しました。

【大項目1】 教育委員会の活動

教育委員会の会議の運営改善や公開、保護者や地域住民への情報発信など6項目についてその実施状況の点検・評価を行いました。

【大項目2】 教育委員会が管理・執行する事務

教育行政の運営に関する基本方針の策定、教育機関の設置や廃止、財産の管理、規則の改廃等、教育委員会の職務権限に属するものの実施状況の点検・評価を行いました。

【大項目3】 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

本年度は、教育行政の運営に関する基本方針に定められた19の主要施策について点検・評価を行いました。

2. 点検・評価方法について

点検・評価にあたっては、事業の進捗状況を総括し、その達成度を自己評価するとともに、課題や今後の方向性についての検討をしました。

判定は、A：達成している B：概ね達成している C：達成していない D：全く達成できていない の4段階で評価を行いました。

達成度の評価は、客観性の確保のため、数値に基づいた評価をしようと、それぞれの施策を構成する主要事業毎に、できるだけ指標及び目標値の設定を行いました。また、今後の方向性は、拡大、継続、見直し、縮小、停止、廃止、完了の7項目で示しています。

なお、教育委員会が管理・執行する事務については、規則で規定された事務であるため達成度、今後の方向性は判定せず件数の表示をしました。

3. 学識経験を有する知見の活用

点検・評価の客観性を確保するため、教育委員会の自己評価結果について、「御殿場市教育委員会管理及び執行状況に関する懇話会」を開催し、次の方々から意見・助言をいただきました。

本田寛昭 御殿場市PTA連合会の代表

勝又浩吉 知識と経験を有する者（元社会教育委員）

土屋建城 知識と経験を有する者（会社社長）

御殿場市教育委員会自己点検・評価シート（平成25年度分）

判定	達成度	A達成している B概ね達成している C達成していない D全く達成できていない						
	今後の方向性	拡大	継続	見直し	縮小	停止	廃止	完了

大項目	中項目	小項目	点検・評価			
			判定		状況、課題、今後の対応	
			達成度	今後の方向性		
1 教育委員会の活動	(1) 教育委員会の会議の運営改善	① 教育委員会会議の開催回数	A	継続	○ 定例会12回、臨時会2回、協議会を12回開催した。各委員から活発な意見・発言・提言があった。	
		② 教育委員会会議の運営上の工夫	A	継続	○ 施設訪問を実施するとともに、会場に原里小学校や南学校給食センターなど庁舎以外の施設を利用して所管施設の実情の把握と施設の視察も行った。 ○ 会議の開催日や開催時間等について検討し、1年間のスケジュールをホームページなどで公開した。	
	(2) 教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信	① 教育委員会の会議・会議録の公開状況	B	継続	○ 定例教育委員会は、開催日等を市の掲示板に掲示し、公開の形で行っており、2名の傍聴者があった。1年間の委員会開催日をホームページなどで公開した。開催時間や開催場所についても工夫をし、傍聴しやすい体制を整えた。 ○ 会議録については、市の条例に基づき、情報公開請求があれば応じていき、平成25年3月からはホームページ上で公開している。	
		② 広報、広聴活動の状況	B	継続	○ 御殿場市教育施策、重点施策、事業内容等をホームページ上に掲載した。 ○ 無線通報で委員会開催の前日夜と当日朝に放送した。 ○ 広報ごてんば11月5日号で新しい教育委員を紹介する記事を掲載した。	
	(3) 教育委員会と事務局の連携	① 教育委員会と事務局の連携	A	継続	○ 議案書等を事前に事務局が各委員に配り、必要な場合は説明等を行うなどして連携を図った。事務局や関係部署からもいろいろな情報の提供がなされている。	
	(4) 教育委員会と首長との連携	① 教育委員会と首長との意見交換会の実施	B	継続	○ 2/21市長との意見交換会を実施した。教育委員会は市長部局から独立した組織であるが、首長の考える教育行政を認識するためにも、意見交換は必要である。意見交換の概要は、「学力調査」、「幼児教育」、「大雪対応」、「教育環境整備」等であった。	

大項目	中項目	小項目	点検・評価		
			判定		状況、課題、今後の対応
			達成度	今後の方向性	
1 教育委員会の活動	(5) 教育委員の 自己研鑽	① 研修会への 参加状況	A	継続	○ 関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会研修会（茨城大会）及び静岡縣市町教育委員研修会等に参加した。 ○ 2/10 三郷市教育委員会における親の育ちを応援する参加体験型学習「親の学習講座」の取組についての効果と実績及び日本科学未来館で科学をもっと身近に感じる活動について視察研修を実施した。
		② 自主的な活動 状況	B	継続	○ 各委員は幼稚園、小・中学校を訪問し、行事に参加した。 ○ 委員提案に基づき、視察や委員による自主的な研修を実施した。 ○ 学校教育課職員と定期的に協議し、教育現場での問題点等の把握に努めた。
	(6) 学校及び教育施設に対する支援・条件整備	① 学校訪問	A	継続	○ 7/25 原里小学校を訪問し、改築中の校舎の視察を行った。 ○ 各委員は幼稚園、小・中学校を訪問し、各種行事に参加し、情報交換や現場の状況を把握した。
		② 所管施設の 訪問	B	継続	○ 7/25 定例教育委員会の前に、富士山樹空の森、印野の熔岩隧道丸尾苑の視察を行った。

御殿場市教育委員会自己点検・評価シート (平成25年度分)

大項目	中項目	H25	H24	点検・評価・内容
2 教育委員会が管理・執行する事務	(1) 教育行政の基本方針を定めること	1件	1件	○平成25年4月定例会において、平成25年度御殿場市教育施策を決定した。
	(2) 学校その他の教育機関の設置及び廃止を決定すること	0件	0件	○平成25年度はなかった。
	(3) 重要な教育財産の取得及び処分を市長に申し出ること	0件	3件	○平成25年度はなかった。
	(4) 県費負担教職員である校長、教頭の任免その他の進退及び県費負担教職員の懲戒について県教育委員会に内申すること	2件	2件	○平成25年12月定例会において、県費負担教職員の人事方針について承認した。 ○平成26年3月臨時会において、県費負担教職員の人事異動について承認した。
	(5) 県費負担教職員のサービスの監督の一般方針を定めること	0件	0件	○平成25年度はなかった。
	(6) (4)、(5)に定めるもののほか、人事の一般方針を定め、及び懲戒を行うこと	0件	0件	○平成25年度はなかった。
	(7) 部長、次長及び課長並びに県費負担教職員以外の学校その他の教育機関の長の任免を行うこと	1件	1件	○平成26年3月臨時会において、教育委員会の人事案について承認した。 (平成26年4月1日付人事異動)
	(8) 学校その他の教育機関の敷地を選定すること	0件	0件	○平成25年度はなかった。
	(9) 教育委員会規則及び規程等の制定又は改廃を行うこと	5件	6件	○御殿場市教育委員会事務局処務規則の外、規則3、要綱1の改正を行った。
	(10) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について、市長に意見を申し出ること	6件	6件	○補正予算(第1号)…5月定例会で承認 ○24年度決算…8月定例会で承認 ○補正予算(第2号)…8月定例会で承認 ○補正予算(第3号)…11月定例会で承認 ○補正予算(第4号)…2月定例会で承認 ○26年度予算…2月定例会で承認

大項目	中項目	H25	H24	点検・評価・内容
2 教育委員会が管理・執行する事務	(11) 教育委員会に属する附属機関の委員を任命し、委嘱すること	44人	54人	○社会教育委員 4月定例会で選任5人 ○学校設置審議会委員 5月定例会で選任9人、10月定例会で選任1人 ○学校結核対策委員会委員 5月定例会で選任8人 ○学校給食センター運営委員会委員 5月定例会で選任18人 ○図書館協議会委員 6月定例会で選任1人 ○子ども読書活動推進会議委員 6月定例会で選任1人 ○社会教育指導員 12月定例会で選任1人
	(12) 学齢児童、生徒の就学すべき学校の区域を設定し、又はこれを変更すること	0件	0件	○平成25年度はなかった。
	(13) 市指定文化財の指定又は解除を行うこと	0件	0件	○平成25年度はなかった。
	(14) 教育委員会表彰を行うこと	3人	3団体 14人	○感謝状贈呈 教育委員会委員1人、PTA連合会長1人、文化財審議会委員1人に対し、感謝状を贈呈した。
	(15) 教科用図書の採択を行うこと	0件	0件	○平成24年度はなかった。
	(16) 就学援助の認定を行うこと	323件	311件	就学援助 ○364人の申請があった。 ○323人の児童・生徒を認定した。 ○認定の付議回数11回
	(17) 御殿場市公文書公開条例第12条に規定する不服申立てがあった場合の手續に関する事	0件	0件	○事案はなかった。
	(18) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価	1件	1件	○平成24年度に実施した教育委員会の事業について、教育委員会の活動、教育委員会が管理・執行する事務及び教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務の3つに区分し、点検評価を実施した。

大項目	重点施策	主要施策	判定		判定理由(実施内容・成果、課題、今後の対応等)
			達成度	今後の方向性	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	第1 心の教育を基本に「こころざし」を育む魅力ある教育の推進	①魅力ある学びづくりの推進	B	継続	<p>【実施内容】 各中学校区における幼・小・中の連携が確実に行われている。内容も「あいさつ運動」や「基本的なしつけ」などについての取組や教職員の研修などについて質的な深まりが見られた。また各校ではPDCAの学校マネジメント評価を進めるなかで、教育課程の改善が進んでいる。地域との連携もさらに深まり、地域のボランティアが様々な形で学校支援を行っている。</p> <p>【結果・成果】 活動は日頃の教育活動に根付いたものとなっている。その中で特に連携・一貫の重点(柱)を明確にした取組が成果を上げている。</p> <p>【課題】 保育所との連携がまだ十分ではない。</p> <p>【今後の対応】 連携・一貫教育をテーマに研究指定をした富士岡中学校区でさらに先進的な研究に取り組みせるとともに、その成果を全市に広げていく。</p>
		②幼・小・中連携・一貫教育の推進	B	継続	<p>【実施内容】 各中学校区で行われている幼・小・中連携一貫教育は、それぞれの担当が工夫し、特色ある活動が実施された。学習面の連携だけでなく、特別支援関係や「あいさつ」「黙働」などの生活の規律やしつけの面での取組が実践された。また学校評価による授業改善は、学校運営の中に根付いてきた。</p> <p>【結果・成果】 研究指定をしている富士岡中学校区では、1幼稚園2小学校1中学校という単位で、連携の在り方についての研究が進められている。各中学校区でも、日々の生活や学習を基盤とした取組が成果を上げている。幼稚園指導員は積極的に現場に出向き、現場のニーズに応じた的確な指導を行い、園長や教職員の信頼も厚い。</p> <p>【課題】 継続した教育活動のため、形式的なものになっている学校もあった。新たな意識の向上が求められている。</p> <p>【今後の対応】 富士岡中学校の研究指定を核にして、その成果を市内に広げるとともに、連携・一貫の研修会にも指導主事を派遣し、助言等を行う。幼稚園教育については、公開保育等に積極的に指導主事を派遣するとともに、連携・一貫教育の中に幼稚園の位置づけをはっきりさせる。</p>

大項目	重点施策	主要施策	判定		判定理由(実施内容・成果、課題、今後の対応等)
			達成度	今後の方向性	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	第1 心の教育を基本に「こころざし」を育む魅力ある教育の推進	③特別支援教育の充実	B	継続	<p>【実施内容】 特別支援コーディネーターを核にした特別支援教育・就学指導の推進を進めている。特別支援教育について組織だった学校体制での対応ができつつある。また特別支援教育の指導のよりどころとなる「個別の指導計画」については、どの学校でも作成済となっている。</p> <p>【結果・成果】 コーディネーターを核とした組織的な支援体制と個別の教育支援計画・指導計画の作成によって、効果的な幼・保・小・中の連携体制が整いつつある。子どもの将来を見据えた就園指導・就学指導が推進されている。</p> <p>【課題】 個別の教育支援計画については、学校だけでは対応できないので、関係機関との連携の上で進めていきたい。</p> <p>【今後の対応】 特別支援教育コーディネーターの養成に力点を置く。県等の特別研修を受けたコーディネーターを講師に実践的な研修会を開催する。校長会教頭会特別支援教育担任の研修会などでも積極的な指導を行う。</p>
		④心の教育の推進	B	継続	<p>【実施内容】 各中学校区ごとの幼・小・中連携一貫教育において「挨拶」等の取組が活発に行われている。学校によっては「立ち止まって挨拶」、「会釈・お辞儀・言葉の挨拶の使い分け等」の実践も行われた。指導する教職員「挨拶」だけではなく、「一言」言葉かけをするなどの取組も行っている。夢創造事業は各学校の実態に応じて特色ある取組がなされている。学校図書館については図書館補助員が精力的に環境整備に取り組んでいる。教育相談体制は、児童生徒及び保護者へのセフティネット的な役割を果たしている。</p> <p>【結果・成果】 御殿場市教育委員会の重点である「社会力・人間力の育成」という視点からみると「挨拶」が90%以上の児童生徒が進んで行っているのは成果といえる。</p> <p>【課題】 心の教育については、具体的な内容が各学校に任されている。市として方向性を明らかにする必要がある。学校図書館については、専門職である司書等の配置を行い、子どもたちの読書の質と量の増加を図る必要がある。相談体制については、運用面で改善の余地があると考えられる。</p> <p>【今後の対応】 心の教育についての具体的な指導内容を記した副読本を作成し、それをよりどころに各学校での指導を展開する。挨拶等を通して子ども同士の心の交流が進められるよう取り組んでいく。夢創造事業については学校の課題に応じた取組を進めたい。学校図書館については「活用」を意識した授業改善を進める中で、図書館のさらなる利用を進めていきたい。教育相談体制については、学校がより活用しやすくなるよう相談体制の改善を進める。</p>

大項目	重点施策	主要施策	判定		判定理由(実施内容・成果、課題、今後の対応等)
			達成度	今後の方向性	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	第2 生涯学習環境の充実と豊かな人づくり、地域づくりの推進	①生涯学習の推進	B	継続	<p>○実施結果、成果 静岡県民カレッジ連携講座として市民大学、地域づくり活動学習講座ほかを開催した。特に市民大学講座は、富士山世界遺産登録記念事業として幅広い講義内容になるよう努めた。 生涯学習ボランティアセンター「ひろがり学習塾」は、PRや発表の支援を行った。</p> <p>○課題、今後の対応等 社会教育委員会の役割をさらに強化し、提言を事業に生かす。ひろがり学習塾等の生涯学習指導者の後継者育成が必要となっている。</p>
		②家庭教育力の向上	B	継続	<p>○実施結果、成果 楽しい子育て教室を開催し、親のあり方・しつけ方の指導を学んだ。託児には保育ボランティアの協力を得た。 家庭教育学級を24学級で開級した。また家庭教育学級運営委員研修を行い、家庭の教育力の向上を促進した。 各小中学校の1日入学説明会時に子育て学習講座を行った。</p> <p>○課題、今後の対応等 家庭教育学級の開催箇所、学校開放講座の開催校をさらに増やすため、今後も開催増に向けPRしていく。 講座や教室に参加できない人に向けての効果的な情報発信方法等を検討していく。</p>
		③人づくり・地域づくり活動の充実	C	継続	<p>○実施結果、成果 地域づくり活動主事連絡会と学習講座を同時開催することにより、地域づくりに係る意識を高めることができた。 社会教育的団体(婦人会連絡協議会、ボーイスカウト、ガールスカウト)へ補助するとともに定例会や各種活動での支援を行った。</p> <p>○課題、今後の対応等 社会教育的団体は、年々会員数が減少しているため、各団体の広報等に協力していく。 コミュニティ活動にもっと多くの住民が関心を持つための仕掛けづくり、支援活動をするため地域づくり活動講座等への参加者を増やし、講座内容を精査する。</p>
		④青少年の育成	B	継続	<p>○実施結果、成果 青少年活動推進委員の定例会を開催して情報交換や活動の支援を行った。また、青少年チャレンジ体験事業、高原教室等を実施した。青年団情報交換会を開催した。 わたしの主張発表大会は、レベルの高い発表大会が運営できた。放課後子ども教室は、新たに原里が増え7カ所での実施となった。 補導は、声掛け運動をメインに据えて、効率的な活動を行った。</p> <p>○課題、今後の対応等 青少年活動推進委員の資質向上のための研修、青年講座開催への支援を進めていく。青年層の参加が少ないため、効果的な募集方法や参加に興味を持つプログラム等を研究していく。</p>

大項目	重点施策	主要施策	判定		判定理由(実施内容・成果、課題、今後の対応等)
			達成度	今後の方向性	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	第3 文化財の保護と活用	①文化財の保護・継承・保存とその活用	B	継続	<p>○実施結果、成果</p> <p>富士山に関連する文化と歴史への理解を広げるため、天然記念物印野の熔岩隧道丸尾苑の整備が完了し、一般公開した。</p> <p>○課題、今後の対応等</p> <p>民俗資料等を保管している収蔵庫が老朽化していることに加え、資料館などの公開施設がなく市民への公開に支障がある。収蔵庫の改修を含め、資料の公開方法の研究を行っていく。</p>
		②富士山文化遺産への登録	B	継続	<p>○実施結果、成果</p> <p>6月に富士山世界文化遺産登録され、記念企画展示や市民に向けての情報発信を行った。</p> <p>○課題、今後の対応等</p> <p>登録にあたってユネスコから、管理保全計画の策定、巡礼路の調査などいくつかの課題が提示されており、両県・周辺市町とも連携した中で、取り組む必要がある。</p>
	第4 読書の普及や自発的な学習活動の支援	①読書の推進	B	継続	<p>○実施結果、成果</p> <p>リクエスト制度により利用者の要望に応えるよう図書の購入を行い蔵書の充実に努めた。また、御殿場市子ども読書活動推進計画(平成19年度～27年度)に基づき事業を実施した。読書推進月間(11月)、家庭読書の日(第3水曜日)の制定や図書館まつりの開催、そして、図書のリサイクル事業により6,257冊を利用者に提供し、移動図書館の運行により、3,981人の利用があり述べ28,724冊の貸出しを行った。</p> <p>○課題、今後の対応等</p> <p>今後も魅力ある図書館とするために、図書館資料の購入にあたり精査を図る。</p>
		②自発的な学習活動の支援	B	継続	<p>○実施結果、成果</p> <p>学校図書館連絡会では、ボランティア連絡会と合同で開催により、情報交換、活動内容の成果や困っていることなどの情報共有を図った。また、団体貸出(学校への貸出)の方法や小中学生の自発的な学習活動への取り組みの情報共有を行った。</p> <p>近隣公立図書館との広域利用を利用者に紹介し、静岡県横断検索システムを利用し当館に所蔵のない資料を提供した。</p> <p>施設の整備に努め利用者の便を図った。</p> <p>○課題、今後の対応等</p> <p>更なる学習活動の支援をしていくために、図書館利用の広報に努めていく。</p>
		③調査研究事業	B	継続	<p>○実施結果、成果</p> <p>写真資料デジタル情報化事業は、4,754件の整理を完了し、管理と資料の利用を図った。一部未整理データについては新たな参考資料の発見を待つこととなる。</p> <p>○今後の対応等</p> <p>古文書調査事業が未実施のため、今後どのようにしたら効率的にできるか検討する。またデジタル資料の活用方法について研究し利用を図っていく。</p>

大項目	重点施策	主要施策	判定		判定理由(実施内容・成果、課題、今後の対応等)
			達成度	今後の方向性	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	第5 健康教育にふさわしい楽しい食習慣の育成と推進	①望ましい日常の食生活習慣の育成	A	継続	<p>【実施内容】 献立の工夫や『給食だより』の発行、試食会、学校訪問を実施した。地場産品の利用促進は、ごてんばコシヒカリや牛乳を始め、食材の活用に努める。</p> <p>【結果・成果】 新たに地元産大豆を使った「ごてんば なかよし納豆」をJA・学校と協力して開発し、給食に取り入れた。地場産品を多く利用することにより、食育の充実が図られている。</p> <p>【今後の対応】 引き続き実施する。</p>
		②学校給食設備の充実と合理的な運営	B	継続	<p>【実施内容】 3箇所の給食センターで給食事業を実施し、運営委員会では給食運営に関する必要な事項を審議した。</p> <p>【結果・成果】 西・高根給食センターの老朽化が進み、修繕すべき案件が増えた。</p> <p>【課題】 西・高根給食センターの老朽化対応、全センターの不測事態による停電時対応が必要である。</p> <p>【今後の対応】 西・高根給食センターの大規模修繕等整備計画を作成し、整備を行う。</p>
		③衛生思想の普及と作業安全の確立	A	継続	<p>【実施内容】 衛生講習会を開催した。物資納入業者の選定や検収の徹底をした。作業の安全指導や事故防止の徹底、施設点検を実施した。</p> <p>【結果・成果】 衛生講習会は定期的に行われた。物資納入業者の選定や検収の徹底は図られた。作業の安全指導や事故防止の徹底も確実にした。</p> <p>【今後の対応】 引き続き実施する。</p>

大項目	重点施策	主要施策	判定		判定理由(実施内容・成果、課題、今後の対応等)
			達成度	今後の方向性	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務		④ごみ減量化対策	B	継続	<p>【実施内容】 学校給食から出るごみの減量に努めた。</p> <p>【結果・成果】 各給食センターの調理後の野菜くず等は、金華豚の餌や堆肥化した。また、学校から出る残飯等を各センターで破碎し、堆肥化した。牛乳パックは水洗後、リサイクルし、廃油はインクの材料やトラックの燃料等に再利用した。</p> <p>【課題】 記録的な猛暑時、インフルエンザ等の流行時により食欲減退したため、前年度比14.1%残食量が増えた。</p> <p>【今後の対応】 猛暑が想定される時期の献立を工夫する。従来のごみ減量化対策も引き続き実施する。</p>
	第6 多様化する教育環境に対応した <input type="checkbox"/> 施設・設備の総合的な整備と活用	①施設・設備の整備	A	継続	<p>【実施内容】 御殿場市耐震化計画に基づき、小中学校の校舎及び屋内運動場の耐震補強・改築事業を計画的に実施した。(小学校5校、中学校2校) また、環境整備事業についても計画的に実施した。(幼稚園2園)</p> <p>【結果・成果】 耐震関係事業においては、原里小学校校舎改築事業、富士岡小学校校舎耐震補強事業、南中学校校舎耐震補強事業が完了した。 また、環境整備事業においては、原里幼稚園園庭拡張、原里西幼稚園園舎増築、園庭拡張が完了した。</p> <p>【課題】 校舎等の耐震化を最優先に実施しているため、施設の老朽化に伴う改修が遅れている。</p> <p>【今後の対応】 計画どおりに耐震化事業を実施するとともに、環境整備事業についても順次進めていく。</p>
		②教育機器の充実	B	継続	<p>【実施内容】 計画的に教育機器(電子黒板、パソコン、教材備品等)を整備した。</p> <p>【結果・成果】 分かりやすい授業実現のため電子黒板を導入した。また、授業に必要な教材備品を整備した。</p> <p>【課題】 最近の財政状況から、教育機器の充足が難しくなっている。</p> <p>【今後の対応】 計画的に教育機器の更新及び整備を進めていく。</p>

大項目	重点施策	主要施策	判定		判定理由(実施内容・成果、課題、今後の対応等)	事業内容	3ヶ年実施計画事業	指標		
			達成度	今後の方向性				指標名(計算式)	実績値	目標値(年度)
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	①魅力ある学びづくりの推進	B	継続	1	教師力向上のための御殿場市教育フォーラム等の各種研修会の実施		教職員の意識度 フォーラムなどの研修会が自分の教師力向上に役立ったと答える教職員数÷全教職員数×100	84.1%	90% (H28)	
				2	市研究指定校による研究推進・自主発表会の開催		教職員の意識度 市研究指定校の研究発表会等、研修会は自分の教師力向上に役に立ったと答える教職員数÷全教職員数×100	84.10%	90% (H28)	
				3	小学校外国語活動・中学校英語指導者の配置	11205-010外国人英語指導助手委託事業	児童生徒の充実度 ALTのいる授業を楽しみにしていると答える児童生徒数÷抽出全児童生徒数×100	85.1%	90% (H28)	
				4	指導主事の指導・支援による校内研修の活性化		教職員の意識度 校内研修が自らの授業力の向上に役立っていると答える教職員数÷全教職員数×100	89.0%	95% (H28)	
				5	各補助者等による支援事業の充実	11210-010発達障害児支援事業 11210-020特別支援教育支援事業	教職員の意識度 市単の補助者や支援員の配置は効果を上げていると答える教職員数÷全教職員数×100	93.9%	95% (H28)	
				6	子どもと向き合う時間を拡充するための学年事務配置		教職員の意識度 学校事務加配・学校事務共同実施により子どもとかわる時間が増えたと答える教職員数÷学年事務加配実施校の教職員数×100	93.6%	95% (H28)	
	第1 心の教育を基本に「こころざし」を育む魅力ある教育の推進	②幼・小・中連携・一貫教育の推進	B	継続	1	【実施内容】 各中学校区で行われている幼・小・中連携一貫教育は、それぞれの担当が工夫し、特色ある活動が実施された。学習面の連携だけでなく、特別支援関係や「あいさつ」「黙勤」などの生活の規律やしつけの面での取組が実践された。また学校評価による授業改善は、学校運営の中に根付いてきた。 【結果・成果】 研究指定をしている富士岡中学校区では、1幼稚園2小学校1中学校という単位で、連携の在り方についての研究が進められている。各中学校区でも、日々の生活や学習を基盤とした取組が成果を上げている。幼稚園指導員は積極的に現場に出向き、現場のニーズに応じた的確な指導を行い、園長や教職員の信頼も厚い。 【課題】 継続した教育活動のため、形式的なものになっている学校もあった。新たな意識の向上が求められている。 【今後の対応】 富士岡中学校の研究指定を核にして、その成果を市内に広げるとともに、連携・一貫の研修会にも指導主事を派遣し、助言等を行う。幼稚園教育については、公開保育等に積極的に指導主事を派遣するとともに、連携・一貫教育の中に幼稚園の位置づけをはっきりさせる。		教職員の意識度 幼小中の交流が計画的に進められていると答える教職員数÷全教職員数×100	80.8%	90% (H28)
					2	教育課程の改善を目指した自己評価・学校関係者評価の実施		教職員の認識度 自己評価や学校関係者評価が教育課程の改善につながっていると答える教職員数÷全教職員数×100	87.4%	90% (H28)
					3	幼稚園教育充実のための指導員配置		幼稚園教職員自己評価、教師として、子どもの関わり方を振り返り、明日への保育に生かしていると答える幼稚園教職員数÷全幼稚園教職員数×100	100%	100% (H28)
	③特別支援教育の充実	B	継続	1	【実施内容】 特別支援コーディネーターを核にした特別支援教育・就学指導の推進を進めている。特別支援教育について組織だった学校体制での対応ができつつある。また特別支援教育の指導のよりどころとなる「個別の指導計画」については、どの学校でも作成済となっている。 【結果・成果】 コーディネーターを核とした組織的な支援体制と個別の教育支援計画・指導計画の作成によって、効果的な幼・保・小・中の連携体制が整いつつある。子どもの将来を見据えた就園指導・就学指導が推進されている。 【課題】 個別の教育支援計画については、学校だけでは対応できないので、関係機関との連携の上で進めていきたい。 【今後の対応】 特別支援教育コーディネーターの養成に力を置く。県等の特別研修を受けたコーディネーターを講師に実践的な研修会を開催する。校長会教頭会特別支援教育担任の研修会などでも積極的な指導を行う。		特別支援コーディネーターの充実度 特別支援教育コーディネーターを中心とした機能的な校内支援体制の整備	85%	100% (H28)	
				2	就学支援指導、就園指導の充実		教職員の充実度 就学指導が計画的に行われていると答える教職員数÷全教職員数×100	94%	95% (H28)	
				3	個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用	11210-010発達障害児支援事業 11210-020特別支援教育支援事業	教職員の充実度 個別の支援指導計画に基づく指導が行われてると考える教職員数÷全教職員数×100	86%	90% (H28)	
	④心の教育の推進	B	継続	1	【実施内容】 各中学校区ごとの幼・小・中連携一貫教育において「挨拶」等の取組が活発に行われている。学校によっては「立ち止まって挨拶」、「会釈・お辞儀・言葉の挨拶の使い分け等」の実践も行われた。指導する教職員「挨拶」だけではなく、「一言」言葉かけをするなどの取組も行っている。 夢創造事業は各学校の実態に応じて特色ある取組がなされている。学校図書館については図書館補助員が積極的に環境整備に取り組んでいる。教育相談体制は、児童生徒及び保護者へのセフティネット的な役割を果たしている。 【結果・成果】 御殿場市教育委員会の重点である「社会力・人間力の育成」という視点からみると「挨拶」が90%以上の児童生徒が進んで行っているのは成果といえる。 【課題】 心の教育については、具体的な内容が各学校に任されている。市として方向性を明らかにする必要がある。学校図書館については、専門職である司書等の配置を行い、子どもたちの読書の質と量の増加を図る必要がある。相談体制については、運用面で改善の余地があると考えられる。 【今後の対応】 心の教育についての具体的な指導内容を記した副読本を作成し、それをよりどころに各学校での指導を展開する。挨拶等を通して子ども同士の心の交流が進められるよう取り組んでいく。夢創造事業については学校の課題に応じた取組を進めたい。学校図書館については「活用」を意識した授業改善を進める中で、図書館のさらなる利用を進めていきたい。教育相談体制については、学校がより活用しやすくなるよう相談体制の改善を進める。		児童生徒の認識度 近所の人に挨拶したり、困っている人に手助けをしようとする児童生徒の数÷抽出全児童生徒数×100	89.1%	95% (H28)	
				2	あいさつ+「ありがとう」活動の展開		児童生徒の実践度 あいさつ+「ありがとう」を学級の仲間や家庭や地域の方々に言える児童生徒の数÷抽出全児童生徒数×100	91.0%	95% (H28)	
				3	夢とあこがれを育てる夢創造事業の実施		児童生徒の意識度 夢創造事業を良かったと答えている児童生徒の数÷抽出全児童生徒数×100	87.5%	93% (H28)	
				4	学校図書館経営の充実		教職員の意識度 授業で学校図書館を利用していると答える教職員数÷全教職員数×100	77.8%	85% (H28)	
				5	教育相談体制の充実		児童生徒の実感度 教育相談員がいると安心して学校生活が送れると答えている児童生徒の数÷抽出全児童生徒数×100	70%	75% (H28)	
				6	子どもの心身の健康を支える保健室経営と学校専門医の活用		教職員の認識度 学校専門相談医精度の概要を理解していると答える教職員数÷全教職員数×100	61.20%	80% (H28)	

大項目	重点施策	主要施策	判定		判定理由(実施内容・成果、課題、今後の対応等)	事業内容	3ヶ年実施計画事業	指標		
			達成度	今後の方向性				指標名(計算式)	実績値	目標値(年度)
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	第2 生涯学習環境の充実と豊かな人づくり、地域づくりの推進	①生涯学習の推進	B	継続	○実施結果、成果 静岡県民カレッジ連携講座として市民大学、地域づくり活動学習講座ほかを開催した。特に市民大学講座は、富士山世界遺産登録記念事業として幅広い講義内容になるよう努めた。生涯学習ボランティアセンター「ひろがり学習塾」は、PRや発表の支援を行った。 ○課題、今後の対応等 社会教育委員会の役割をさらに強化し、提言を事業に生かす。ひろがり学習塾等の生涯学習指導者の後継者育成が必要となっている。	1 社会教育委員会・生涯学習推進会の開催		社会教育委員会開催数(回) 生涯学習推進会開催(回)	4 2	4(H26) 2(H26)
						2 生涯学習の情報の発信		月刊発行部数(部) 月刊発行回数(回) 延べページ数(ページ)	29,000 6 16	広報ごてんばへの掲載(年6回、全戸配布、16ページ)
						3 生涯学習に取り組む団体支援、活動助成		ひろがり学習塾開講数(教室)	69	75(H26)
						4 市民大学・県民カレッジ連携講座の開催		市民大学講座参加者数(人) 県民カレッジ連携講座数(講座)	366 36	400(H26) 40(H26)
		1 楽しい子育て教室、子育て学習講座の開催		子育て教室開催回数(回) 子育て教室参加人数(組) 学校開放講座実施件数(件)	12 26 14	12(H26) 30(H26) 16(H26)				
		2 家庭教育学級活動の助成と研修会等の開催		家庭教育学級実施数(学級) 研修会開催回数(回) 延べ研修参加者数(人) 子育て学習講座開催数(回)	24 8 520 15	27(H26) 5(H26) 400(H26) 16(H26)				
	③人づくり・地域づくり活動の充実	C	継続	○実施結果、成果 地域づくり活動主事連絡会と学習講座を同時開催することにより、地域づくりに係る意識を高めることができた。社会教育的団体(婦人会連絡協議会、ボーイスカウト、ガールスカウト)へ補助するとともに定例会や各種活動での支援を行った。 ○課題、今後の対応等 社会教育的団体は、年々会員数が減少しているため、各団体の広報等に協力していく。 コミュニティ活動にもっと多くの住民が関心を持つための仕掛けづくり、支援活動をするため地域づくり活動講座等への参加者を増やし、講座内容を精査する。	1 社会教育的団体の育成		後援名義申請の許可数(件)	96	100%(H26)	
					2 地域づくり活動の支援		主事連絡会開催回数(回)	4	5(H26)	
					3 地域づくり活動学習講座の開催		地域づくり学習講座出席者数(人)	55	90(H26)	
	④青少年の育成	B	継続	○実施結果、成果 青少年活動推進委員の定例会を開催して情報交換や活動の支援を行った。また、青少年チャレンジ体験事業、高原教室等を実施した。青年団情報交換会を開催した。 わたしの主張発表大会は、レベルの高い発表大会が運営できた。放課後子ども教室は、新たに原里が増え7カ所での実施となった。 補導は、声掛け運動をメインに据えて、効率的な活動を行った。 ○課題、今後の対応等 青少年活動推進委員の資質向上のための研修、青年講座開催への支援を進めていく。青年層の参加が少ないため、効果的な募集方法や参加に興味を持つプログラム等を研究していく。	1 青少年の体験、発表の機会の提供と青少年団体の育成	11304-010【仮称】青少年広場(青少年会館跡地利活用)整備事業	チャレンジ体験事業参加者(人) 少年高原教室参加者(人) 青年広場整備計画推進状況(%)	39 15 20	30(H26) 20(H27) 100%(H27)	
					2 補導、青少年相談など青少年センター事業の推進		かけこみ110番の家登録件数(件) 補導実施回数(回) 補導出動人数(人) 補導中の声掛け人数(人) 声掛け運動新規参加者(人)	1,139 106 593 1,683 152	1,200(H26) 110(H26) 660(H26) 1,500(H26) 200(H26)	
					3 放課後子ども教室の実施	11209-010放課後子ども教室(放課後子どもプラン)推進事業	放課後子どもプラン運営委員会開催回数(回) 放課後子ども教室校区数	1 7	2(H26) 10(H28)	
4 青少年健全育成と青少年のための科学の祭典の開催					11303-010青少年のための科学の祭典事業	成人式参加者数(人) 科学の祭典参加者数(人)	840 1,800	900(H26) 2,000(H27)		
第3 文化財の保護と活用	①文化財の保護・継承・保存とその活用	B	継続	○実施結果、成果 富士山に関連する文化と歴史への理解を広げるため、天然記念物印野の熔岩隧道丸尾苑の整備が完了し、一般公開した。 ○課題、今後の対応等 民俗資料等を保管している収蔵庫が老朽化していることに加え、資料館などの公開施設がなく市民への公開に支障がある。収蔵庫の改修を含め、資料の公開方法の研究を行っていく。	1 文化財審議会の開催・指定文化財の保護・整備・活用、埋蔵文化財の発掘調査・出土品の保存、文化財のしおりの調査		文化財審議会開催数(回)	3	3(H26)	
					2 民俗資料の整理及び収蔵庫管理、富士山測候所関係資料の活用		収蔵品貸出数(件)	3	10(H26)	
					3 郷土資料館の検討	13205-010【仮称】郷土資料館整備事業 13205-020民俗資料収蔵庫整備事業	研究会開催による進捗状況(%)	—	100(H28)	
②富士山文化遺産への登録	B	継続	○実施結果、成果 6月に富士山世界文化遺産登録され、記念企画展示や市民に向けての情報発信を行った。 ○課題、今後の対応等 登録にあたってユネスコから、管理保全計画の策定、巡礼路の調査などいくつかの課題が提示されており、両県・周辺市町とも連携した中で、取り組む必要がある。	1 富士山文化遺産の登録に向けた活動・支援の充実		登録に向けた進捗状況(%) 富士山世界文化遺産登録企画展示来場者数(人)	100 3,138	100(H25) 3,000(H25)		

大項目	重点施策	主要施策	判定		判定理由(実施内容・成果、課題、今後の対応等)	事業内容	3ヶ年実施計画事業	指標		
			達成度	今後の方向性				指標名(計算式)	実績値	目標値(年度)
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	第4 読書の普及や自発的な学習活動の支援	①読書の推進	B	継続	<p>○実施結果、成果 リクエスト制度により利用者の要望に応えるよう図書の購入を行い蔵書の充実に努めた。また、御殿場市子ども読書活動推進計画(平成19年度～27年度)に基づき事業を実施した。読書推進月間(11月)、家庭読書の日(第3水曜日)の制定や図書館まつりの開催、そして、図書のリサイクル事業により6,257冊を利用者に提供し、移動図書館の運行により、3,981人の利用があり述べ28,724冊の貸出しを行った。</p> <p>○課題、今後の対応等 今後も魅力ある図書館とするために、図書館資料の購入にあたり精査を図る。</p>	1 蔵書の充実、視聴覚資料の充実、広報活動の推進	11404-010図書館図書整備事業	蔵書購入冊数(冊) 視聴覚資料購入点数(点)	7,473 88	8,500(H27) 100(H27)
						2 子ども読書活動推進計画、ブックスタート事業の推進	11209-010子ども読書活動推進事業	ブックスタート実施回数(回)	24	24(H27)
						3 インターネットでの蔵書検索の充実、図書のリサイクル事業、移動図書館車の活用	11404-020図書館分館整備構想策定事業	リサイクルブックステーション(回) 移動図書館車の運行(日)	14 186	14(H25) 200(H27)
		②自発的な学習活動の支援	B	継続	<p>○実施結果、成果 学校図書館連絡会では、ボランティア連絡会と合同で開催により、情報交換、活動内容の成果や困っていることなどの情報共有を図った。また、団体貸出(学校への貸出)の方法や小中学生の自発的な学習活動への取り組みの情報共有を行った。近隣公立図書館との広域利用を利用者に紹介し、静岡県横断検索システムを利用し当館に所蔵のない資料を提供した。施設の整備に努め利用者の便を図った。</p> <p>○課題、今後の対応等 更なる学習活動の支援をしていくために、図書館利用の広報に努めていく。</p>	1 施設の整備・読書・資料相談(レファレンス)の充実		図書館資料の相談件数(件)	6,394	7,000(H27)
						2 図書情報の公開及び学習情報の提供	11404-040図書情報インターネット公開事業	ネット予約件数(件)	4,154	4,500件(H27)
						3 ボランティア活動の場や機会の提供、地区・学校図書館との連携		学校図書館・ボランティア合同連絡会の開催(回)	1	1(H25)
	4 近隣公立図書館との広域利用やネットワーク化の促進						広域利用者(人) 相互貸借(合計件数)	1,899 1,481	2,000(H27) 1,700(H27)	
	③調査研究事業	B	継続	<p>○実施結果、成果 写真資料デジタル情報化事業は、4,754件の整理を完了し、管理と資料の利用を図った。一部未整理データについては新たな参考資料の発見を待つこととなる。</p> <p>○今後の対応等 古文書調査事業が未実施のため、今後どのようにしたら効率的にできるか検討する。またデジタル資料の活用方法について研究し利用を図っていく。</p>	1 古文書調査の支援		未実施	0	1(H26)	
					2 御殿場市の歴史研究論文募集		応募件数(件)	2	2(H25)	
					3 デジタル情報化した写真資料の活用		デジタル写真情報の利用件数	8	20(H27)	

大項目	重点施策	主要施策	判定		判定理由(実施内容・成果、課題、今後の対応等)	事業内容	3ヶ年実施計画事業	指標		
			達成度	今後の方向性				指標名(計算式)	実績値	目標値(年度)
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	第5 健康教育にふさわしい楽しい食生活習慣の育成	①望ましい日常の食生活習慣の育成	A	継続	【実施内容】 献立の工夫や『給食だより』の発行、試食会、学校訪問を実施した。地場産品の利用促進は、ごてんばコンヒカリや牛乳を始め、食材の活用に努める。 【結果・成果】 新たに地元産大豆を使った「ごてんば なかよし納豆」をJA・学校と協力して開発し、給食に取り入れた。地場産品を多く利用することにより、食育の充実が図られている。 【今後の対応】 引き続き実施する。	1 児童の成長に合わせたメニューの研究と開発、地場産品の利用促進		地場産品の利用率	39.5%	35% (H30)
						2 食育の充実、『給食だより』の発行		『給食だより』の発行数	月1回	月1回
						3 試食会の開催、学校訪問の充実		試食会の開催数 学校訪問回数(学級訪問)	40回 311回	35回 276回 (H30)
		②学校給食設備の充実と合理的な運営	B	継続	【実施内容】 3箇所の給食センターで給食事業を実施し、運営委員会では給食運営に関する必要な事項を審議した。 【結果・成果】 西・高根給食センターの老朽化が進み、修繕すべき案件が増えた。 【課題】 西・高根給食センターの老朽化対応、全センターの不測事態による停電時対応が必要である。 【今後の対応】 西・高根給食センターの大規模修繕等整備計画を作成し、整備を行う。	1 センター等の施設整備事業、衛生管理対策事業	11208-020学校給食センター施設改修事業	機器更新計画に基づく事業進捗率	100%	100% (H26)
						2 学校給食センター運営委員会の開催		開催数	2回	2回
						1 衛生講習会の開催、物資納入業者の選定と検収の徹底		衛生講習会	4回	4回
	③衛生思想の普及と作業安全の確立	A	継続	【実施内容】 衛生講習会を開催した。物資納入業者の選定や検収の徹底をした。作業の安全指導や事故防止の徹底、施設点検を実施した。 【結果・成果】 衛生講習会は定期的に開催した。物資納入業者の選定や検収の徹底は図られた。作業の安全指導や事故防止の徹底も確実にした。 【今後の対応】 引き続き実施する。	2 作業の安全指導と事故防止の徹底、施設点検の実施		施設点検の実施	点検計画により実施	点検計画により実施	
					1 学校給食から発生する残菜等リサイクルの推進		残菜等のリサイクル率	100%	100%	
					1 学校給食から出るごみの減量に努めた。 【結果・成果】 各給食センターの調理後の野菜くず等は、金華豚の餌や堆肥化した。また、学校から出る残飯等を各センターで破碎し、堆肥化した。牛乳パックは水洗後、リサイクルし、廃油はインクの材料やトラックの燃料等に再利用した。 【課題】 記録的な猛暑時、インフルエンザ等の流行時により食欲減退したため、前年度比14.1%残食量が増えた。 【今後の対応】 猛暑が想定される時期の献立を工夫する。従来のごみ減量化対策も引き続き実施する。					
	第6 多様化する教育環境に対応した施設・設備の総合的な整備と活用	①施設・設備の整備	A	継続	【実施内容】 御殿場市耐震化計画に基づき、小中学校の校舎及び屋内運動場の耐震補強・改築事業を計画的に実施した。(小学校5校、中学校2校) また、環境整備事業についても計画的に実施した。(幼稚園2園) 【結果・成果】 耐震関係事業においては、原里小学校校舎改築事業、富士岡小学校校舎耐震補強事業、南中学校校舎耐震補強事業が完了した。 また、環境整備事業においては、原里幼稚園園庭拡張、原里西幼稚園園舎増築、園庭拡張が完了した。 【課題】 校舎等の耐震化を最優先に実施しているため、施設の老朽化に伴う改修が遅れている。 【今後の対応】 計画どおりに耐震化事業を実施するとともに、環境整備事業についても順次進めていく。	1 富士岡小学校屋内運動場耐震補強実施設計、高根小学校プール改築実施設計、玉穂地区児童屋内体育施設改築実施設計、神山地区児童屋内体育施設リニューアル計画	11212-020小学校耐震補強事業 11212-030中学校耐震補強事業 11212-070原里小学校校舎改築事業 11212-080印野小学校校舎改築事業 11212-130小学校プール改築事業 25202-030地区児童屋内体育施設耐震補強事業 11106-010幼稚園環境整備事業	小学校棟別による耐震化率	98.9%	100% (H26)
						2 原里小学校校舎改築事業、印野小学校校舎改築事業		中学校棟別による耐震化率	98.7%	100% (H26)
						3 富士岡小学校、南中学校、御殿場中学校校舎耐震補強工事、高根小学校プール改築工事		地区児童屋内体育施設棟別による耐震化率	60.0%	100% (H27)
4 環境整備事業(幼稚園・小・中学校) 原里幼稚園園庭拡張工事、原里西幼稚園園舎増築、園庭拡張工事										
②教育機器の充実	B	継続	【実施内容】 計画的に教育機器(電子黒板、パソコン、教材備品等)を整備した。 【結果・成果】 分かりやすい授業実現のため電子黒板を導入した。また、授業に必要な教材備品を整備した。 【課題】 最近の財政状況から、教育機器の充足が難しくなっている。 【今後の対応】 計画的に教育機器の更新及び整備を進めていく。	1 教材備品購入事業(小・中学校)、特別支援学級教材整備事業	110206-010教育用コンピュータ整備事業 11206-020小学校・中学校電子黒板整備事業	電子黒板整備率(普通教室がある各フロアに1台以上設置してある学校の割合)	70.6%	100% (H28)		

◎「御殿場市教育委員会管理及び執行状況に関する懇話会」からの意見

1 教育委員会の活動

○教育委員会会議録をホームページ上に公開していますが、アクセスされた数のカウント等は分かりますか。

教育委員会回答：ホームページを訪れた人の数は分かりますが、会議録を見た人数という現実には分からない状況です。

○市長との意見交換会について、内容について公開していただきたい。

教育委員会回答：昨年の懇話会の際もご提言をいただいたかと思いますが、市長との意見交換会については内容を公開するほどでも無かったというのが現状です。これからは公開に向けて課題を整理した上で市長との意見交換会を実施したいと思います。

○定例教育委員は殆ど市役所第5会議室での開催となっておりますが、出来るだけ傍聴していただくためにPTAの会合に合わせ各学校で行うなど、工夫をしていただけるとありがたい。

教育委員会回答：今年度10月には教育委員会を給食センターで行う予定となっておりますが、一点無難しいのが就学援助が議題に上がった時に関係者以外は退席していただかなければなりません。しかし、就学援助はほぼ毎回議題に上がりますので、その辺りが調整出来れば学校で開催ということも考えられると思います。

2 教育委員会が管理・執行する事務

○就学援助の認定について、前年度より増えているということですが、今後も増える傾向にあるのでしょうか。

教育委員会回答：就学援助については、対前年比では12名増という結果でした。過去遡って推移を見ますと、若干のばらつきはありますが傾向としては微増傾向と捉えております。

3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

第1 心の教育を基本に「こころざしを持った子ども」を育む、魅力ある教育の推進

○小中学生を取り巻く事件が沢山発生して心を痛めています。その中で、いじめに対する取り組みについてお聞かせいただきたい。

教育委員会回答：いじめ防止対策推進法という法律が昨年度公布され、それを受けて県も方針を今年3月に作りました。御殿場市は市としていじめ防止対策についての方針を作ってパブリックコメントを取っているところです。これが通れば今年度中に周知していくことになります。

○市内には若い先生が多いと聞きました、経験の少なさから心配されることはあるでしょうか。

教育委員会回答：若い人が多いから悪いという事では無く、その分活気があっていい事も沢山あるのですが、どうしてもベテランには無い甘さのような部分も出てきてしまいます。教育委員会としては出来る限り若手教員に研修の機会を与えていこうとしています。若い先生は非常に意欲的で、夜間に希望制の講座を年6回程行って毎回70人から80人が参加してくれて、若手教員の意欲は非常に高いと思います。それに応える対応を教育委員会としても考えております。

○通学時に子ども達が事故に遭うケースを報道等で見受けられるが、市として見守り隊の活用等をされているのでしょうか。

教育委員会回答：富士岡小学校はかなり盛んですが、旗を持ってチョッキを着た方がかなりお迎えに出て下さっています。例えば急に行事等で下校時間が変わるとその連絡等が大変だという事はありますが、それだけ協力して見守っていただいております。

○全国学力学習状況調査の公表について、御殿場市の学校は全国でどの辺りのポジションにいるかという程度の発表をされた方が良いのでは。

教育委員会回答：公表については文章表現等の公表で行きたいなと考えております。ただ、やや出来るの、ややがどの程度を表すのか、要するにどの辺りに位置にいるのかが分かるような形をこれから検討していきたいと思っております。

○LINEやFacebookといった新しいツールについて、学校教育の中で何か対策をされているかお聞きしたい。

教育委員会回答：情報教育に関しては、情報モラル教育という形で使い方やどういった問題がおきるかという話については小学校も中学校もかなりやっております。

第2 生涯学習環境の充実と豊かな人づくり、地域づくりの推進

- ・ 特になし

第3 文化財の保護と活用

○民俗資料館について、御殿場市の人口規模で持っていないのはおかしいのでは。財産区などをお願いして、是非作っていただきたい。

教育委員会回答：教育委員会としては富士山世界文化遺産登録という事もありまして、市長の方も文化都市であるとか観光ハブ都市であると大きな施策として考えておりますので、教育委員会としてはこれだけの御殿場市には是非作って欲し

いとお願いをさせていただいております。財源については、財産区であるとか演習場を抱えている法人であるとかを視野に入れ教育委員会としては引き続きお願いをさせていただきます。

第4 読書の普及や自発的な学習活動の支援

- ・ 特になし

第5 健康教育にふさわしい楽しい食習慣の育成と推進

○学校給食の関係で、地場産品の利用目標35%の中39.5%まで来ているとのことだが、ごてんばコシヒカリを使った米食とパン食の比率はどの位なのでしょうか。

教育委員会回答: 一週間の割合としますと、ご飯が3日から3.5日、パンが1日、麺がある週と無い週があるという事で0.5日という割合になっております。

○給食の残食を業者に委託し、堆肥化していると事ですが、100%堆肥化しているのでしょうか。市の委託業者がそのままRDFに持ち込んで焼却処分をしたりしていないか。

教育委員会回答: 3か所ある給食センターの残食は、南給食センターの近くにある民間の堆肥工場で堆肥化され、それを使ってゆめかまどというブランドのお米を作っています。RDFセンターはどの業者が入って来ているか全て確認しているので、残食は一切RDFに持ち込まれていないということをRDFから聞いています。

第6 多様化する教育環境に対応した施設・設備の総合的な設備と活用

- ・ 特になし

◎総合評価

【大項目 1】

教育委員会の活動の達成度については、10項目中A評価が7項目、B評価が3項目、今後の方向性については、継続が全部の10項目となりました。

首長との意見交換の実施や、学校・地域施設などでの委員会が開催され、また、教育委員会の会議の傍聴者もあり開かれた教育委員会になり前年度よりも改善されました。更に、教育委員会の活動を市民に知ってもらう為にも、教育委員会の開催場所及び制度を周知するための工夫を更に進めていく必要があるものと考えます。

今後はホームページを使った議事録の公開方法や見やすいホームページの作成など、更に市民に対して活動が見えやすい教育委員会を目指していきたいと思えます。

【大項目 2】

教育委員会が管理・執行する事務については、教育委員会規則で定められており、判定は行わず件数の表示とし、実績の数値を表記しました。

【大項目 3】

教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務については、平成23年度「御殿場の教育」にあります教育行政の基本方針となる御殿場市教育施策の30の施策を評価の対象としました。点検評価にあたりましては、それぞれの施策を構成する68の主要事業について、その進捗状況を測るための指標を定め、目標設定を行い、施策の評価に活用いたしました。

教育分野の事業は、成果が現れるまでに時間を要するものも多く、一概に、数値では測りきれないものも多々ありますが、一つの判断材料として活用することについては有効なものであり、今後も研究していきたいと思えます。

評価結果は、達成度についてはA評価が6施策、B評価が23施策、C評価が1施策、D評価が0施策、今後の方向性については継続が29施策、拡大が1施策となりましたが、A評価を付けた施策や、今後も継続していくというものも、その判定理由の中で、施策についての課題を見出しているものがほとんどです。

評価結果について、今後、課題・今後の対応のとおり事業の見直しを進めることにより、施策の改善を図っていききたいと考えております。

平成26年度

(平成25年度事業対象)

御殿場市教育委員会

自己点検・評価報告書

平成26年10月

御殿場市教育委員会